

会 議 記 録

会議名称	第 6 回 忠類地域住民会議
開催日時	令和元年 7 月 29 日（月） 15:30～17:30
開催場所	忠類総合支所 2 階小会議室
出席者	委員長、委員 15 名中出席者 11 名、事務局 5 名
次 第	1 開会 2 委員長あいさつ 3 内容 (1) 大樹町多目的航空公園の施設整備検討調査等について (2) 幕別町コミュニティスクールの取組について 4 閉会
会議概要	1 開会 2 委員長あいさつ 3 内容 （今回、大樹町が多目的航空公園を活用する地域活性化方策として施設整備検討調査を行った際、幕別町忠類晩成地区がロケット射場の候補地の一つとして挙げたため、大樹町職員から資料に基づいて説明を受けたもの） Q： 発射した際の海へのゴミの問題があると思うがどうするのか。 A： 全ては不可能だが監視船を出して回収する努力はすることと、万が一漁網などに被害があった場合は補償するなど、漁協とも対応について協議はしている。 Q： 国内の射場としては、種子島以外には大樹町しかないのか。 A： 種子島のほかに鹿児島県の肝付町にもう 1 か所ある。現在、和歌山県の串本町でも整備が進められており、大樹町は 3 番目か 4 番目ということになる。順番を争うわけではなく、それぞれの特徴を活かして棲み分けをしながらやっていきたいというスタンスである。 Q： 住居跡などの文化財もあるかもしれないがどうするのか。 A： 保存地となっているため、許可を取ってあらかじめ調査をしなければいけないと承知している。 Q： ロケットが落ちた後の燃料などによる環境への影響は。 A： 現在飛ばしている MOMO に関してはエタノールと液体窒素のため自然破壊にはならない。今後も環境には十分配慮した対応になると考えている。 (2) 幕別町コミュニティスクールの取組について Q： 小中一貫教育とコミュニティスクールとの結びつきが分からない。 A： コミュニティスクールは、小中一貫を進めるためのエンジンであると考えている。忠類地域については既にその素地があることは理解している。 Q： この制度を導入することによって、これまでの P T A の活動に影響が出てくるのではないかと。運営協議会があると学校と P T A に一つ壁が隔てられると感じる。 A： そのような懸念も実際に聞いているところであり、他の学園とも会議の中で議論しながら進めていきたいと考えている。 ・ 運営協議会の活動が活発になればなるほど P T A が傍観者になってしまうのではないかと。 ・ 地域との協力というが、学校側（先生）は地域の行事等に参加や協力し

てくれているとは思えない。今後、学校側からも積極的に地域の行事等に参加するよう働きかけが必要ではないか。

- ・ この制度は国からいわれてやるだけではなく、幕別町としてどこに重点をおくのか、独自の目標を掲げてほしい。
- ・ コミュニティスクール自体が、地域の住民には伝わっていないと感じる。
- ・ 実際に地域としてどのようにバックアップしたらよいか分からない。
- ・ 事業計画の承認をする会議があり出席したが、達成目標が全く分からない計画だと感じた。検討の余地もなく承認だけを求められても、次に何も繋がらない。
- ・ 教育委員会からの委嘱状なのに、会議の場で校長から交付された。せめて教育委員会の事務局が来て交付するのが筋であり、やる気のなさを感じた。
- ・ コンセンサスをとって、流れにのせてから離れるのは良いと思うが、初めてやるものを最初から丸投げして、事務局が教頭だというのはおかしい。しばらく町がバックアップできる体制をとらないといけないのではないか。

4 閉会